

	児童の実態	改善プラン	改善プランの評価方法
国語	①文章の構成を理解し、「始め・中・終わり」を意識した文章を書こうとすることができる。主語と述語が一致するよう意識して文章を書く力を付ける必要がある。 ②漢字の字形に気を付けて丁寧に書ける児童が多い。既習の漢字を、生活の中で正しく使える力を付ける必要がある。	①生活科と関連させるなど目的意識がもてる作文への取り組みを通して、文章を意欲的に書く機会を多く設ける。 ②構成や言葉の使い方など適宜指導し、書いた文章を自分で読み返す習慣を付けさせる。	①「書くこと」は、ノート・作文で評価する。 ②授業中のノートやワークシートで評価していく。
算数	①既習事項の繰り下がりひき算が定着しておらず、誤答する児童が多い。 ②長さやかさなど、量の単位の学習において、適切な単位の選択や単位換算が苦手な児童が見られる。	①繰り返し練習し、計算する力を身に付けさせる。 ②児童の量感を養い、単位の仕組みの理解を深めるために、計器を用いて測定する経験や、身の回りのものの大きさや量を調べる機会を設定する。	①②授業中の様子、ノート、テストを中心に評価する。
生活	①学区域や野菜の栽培についての興味・関心を高めることができた。コロナ禍による制限も減り、人々との関わりも増えつつある。	①町探検を通じて、学区のお店などの校外での活動を積極的に取り入れ、人との関わりや体験活動を増やしていく。場合によっては、ICT（オンライン会議システム、動画等）を活用し、地域との結びつきを深められるようにする。	①授業中の発言や学習カードなどでの気づきを見て評価する。
体育	①様々な運動遊びを通し、体を動かす楽しさを感じることができている。 ②遊び方を工夫したり考えたことを友達に伝えたりできる児童は少ない。	①場や規則の工夫を行うことで、運動が苦手な児童も積極的に体を動かせるようにする。 ②よい動きやふり返りを行っている児童を称賛して価値付け、様々な動きが経験できるようにする。	①目的意識を明確にし、運動時の行動観察から評価をする。 ②運動時の行動観察とともに、ワークシートのふり返りを活用して評価する。
道徳	①自分の生活と内容項目をつなげて考えることが難しい児童がいる。	①授業の中で、自分の生活と向き合い自分ならどのような行動・実践するのかを考えたり話し合ったりする時間を多く取り入れる。	①価値項目について考えたり感じたりすることができたか、授業中のワークシートや発言で評価する。
特別活動	①係や当番活動では、自分の仕事を一生懸命に取り組む児童が多くいる。 ②話し合い活動では、自分の考えをなかなか言えない児童がいる。	①一生懸命活動している児童の何がよいのかを具体的に称賛し価値づける。同時に、全体を喜ばせ、よりよい学級にすることを繰り返し、学級全体で共通理解を深める。 ②普段の学習の中で言語活動の充実を図り、コミュニケーション能力を高める。事前に考えを書か	①係や当番の仕事について、振り返りの時間を設定し、評価する。 ②意見を発表できたか、相手の考えを聞くことができたかなどを、話し合い活動の様子や

		せ、思いを表現できるようにする。	振り返りカードを用いて、評価する。
音楽	①互いの歌声を聴き合ったり、声の出し方や強弱の仕方を工夫したりすることを楽しんでいる。 ②鍵盤楽器に興味をもち、意欲的に取り組む姿が見られるが、習熟には個人差がある。	①歌声や発音に気を付け、声を合わせて歌う技能を段階的に身に付けさせていく。教え合いながら技能を高められるよう、授業展開を工夫していく。 ②指使いを確かめる時間を確保し、何度も繰り返すことで定着させていく。丁寧に個別指導をする。	①授業での様子を見て、評価する。 ②定期的にテストを行い、評価する。
図工	①絵を描くこと、製作することが好きな児童が多い。はさみや糊等の道具の扱いも上手になってきた。想像力を膨らませ、作品を作ろうとする意欲はあるが、友達や教科書を真似ることが多い。	①製作に取り掛かる前に、個人やグループ、学級全体で想像を膨らませる時間を長く設け、共有する。	①グループや学級全体で共有している様子を観察する。